

Fr. 36: 47-53. Norton, D. C. 1962. Iowa Acad. Sci. 69: 108-117. Prowse, G. A. 1954. Trans. Brit. Mycol. Soc. 37: 134-150. Sommerstorff, H. 1911. Österr. Bot. Zeitschr. 61: 361-373.

* * * * *

線虫を捕食する藻菌類の一種 *Acaulopage pectospora* Drechsler が、台中（台湾）および西表島（琉球）より新たに記録せられた。この菌は、その形態、捕食様式などの点で、輪虫を捕食する二毛菌類腐敗菌科の *Zoophagus insidians* Sommerstorff に似ている。今回、その接合子形成がはじめて観察せられ、分類上明らかに不動類 Zoopagaceae に属するものであることが確認せられた。

○Tetracentron ブータンにも発見さる（原 寛）Hiroshi HARA: *Tetracentron* newly found in Bhutan

カツラに似た原始的な群に属する *Tetracentron sinense* が、1963 年 東京大学第 2 次インド植物調査隊によって初めてヒマラヤ地域のネパール東部で見出されたことは本誌 39: 193-195 (1964) で報告し、今後他の中国との中間地点でも見出される可能性が高いことをのべた。本年の春、東大第 3 次インド植物調査隊（原 寛、山崎 敬、金井弘夫、大橋広好、田中 治、村田 源）はブータンにおいて予想通り *Tetracentron* が生育しているのを確認した。

まず 4 月 9 日ブータンの首都 Thimbu から Dokay La (約 3150 m) を越えた際、峠から東側へ高度で 250 m 程下ったところ、ネパール東部で見出した場所と非常によく似た環境条件の場所で、完全に落葉していたが、前年の古い果穂を垂下した大木を発見し採集した。更に東へブータン中部 Tongsa へ向う途中、Pele La の西側の Ritang (約 2600 m) 附近ですでにカツラのような若葉をひろげた *Tetracentron* を二、三の地点で認め、一番低い産地は海拔 2200 m 位であった。

一方カルカッタの Indian Museum の標本室において、ブータンの東方 NEFA 地域の Kameng 地区 Bomdila 附近 (1300-1500 m) で *Tetracentron* が採集されていることを確かめた。東大から出版した Flora of Eastern Himalaya 85-86 (1966) ですでに予見したように、K. S. Srinavisan 氏によって 1955 年 5 月 14 日に採集され *Betula alnoides* として報告されたものがそれである。これらの事実からみると、*Tetracentron* はネパール以東のヒマラヤ山地に中国まで点々と分布しているものと思われる。

The occurrence of *Tetracentron sinense* Oliver in Bhutan and NEFA has already been suggested by us in Journ. Jap. Bot. 39: 193 (1964), and also in Flora of Eastern Himalaya 85 (1966), and it was actually confirmed this April by the members of the third botanical trip to Eastern Himalaya organized by University of Tokyo.